

2017/06/05 佐々木葉作成

2017/06/06 菊地・元永確認追記

2017/06/12 申請者確認

2017/07/21 外部公開用に一部編集

現地審査レポート

対象地 奄芸郡田井郷／三重県津市大里睦合町 山田井
日時 2017年6月5日（月） 10:30-16:00
参加者 千年村プロジェクト審査員 菊地暁 佐々木葉 元永二郎
地域住民 12名

概要

10:45-12:30 代表申請者宅にてヒアリング
地域の方のプロフィール確認 チェックリストにそって一項目ずつ内容の確認
13:00-15:30 現地調査
15:30-16:00 代表申請者宅にて意見交換

チェックリストの確認（特に付記や確認事項がある項目についてのみ記す）

0. 集落概要

- 面積 0.7km² は Google Map 上に表示された面積
- 人口は正確に把握できていないので、世帯数を3倍した。
- 世帯数 44 は、自治会所属の世帯数。当該集落には自治会に入っていない世帯は1世帯ある。世帯数には大きな変動はない。もっとも多い時は48世帯であったと思われる。
- この地域を住民は「山田井（やまだい）」と呼ぶが、これは地名としての位置付けはない。が、国土地理院の地形図には記載あり。昭和50年代には山田井行きというバスがあった。

1. 環境-自然とのつきあい方（数字はチェックリストに対応）

- ① 「現状の土地区画のまま変わっていない」とあるが、これは、「集落の範囲、位置が変わっていない」という意味であり、個々の区画について述べているものではない。
- ② 圃場整備は昭和63年ごろから行われた。一般的に言うとかかなり遅い。
- ③ 畑での野菜は、自家用のみならず一部は販売もしていた。
- ④ 「安濃ダムよりパイプライン及び河川放流できている」とは、県営の中勢用水のことをさす。パイプラインで作田池（ため池）と志登茂川にダムからの水が流入している。水源は、志登

茂川沿いの集落周辺は川からの取水、谷戸地区は作田池と山水から取水。作田池は古くからあるが昭和 50 年代に堤体を再構築した。

- ⑤ 豊里第二団地の整備は民間事業者によるもので、昭和 50 年代。
- ⑥ 伊勢湾台風（昭和 34 年 9 月）に志登茂川が溢れたが宅地については川に近い一件が浸水したのみ。その他にも越水は度々あるが田が浸水するのみで宅地に被害はない。山崩れもない。

II. 地域経営 集落を支える仕組み

- ① 自治は東睦合自治会。多為神社の祭礼は 4 地区（山田井、川北、野崎、小野田）が輪番制で担当する。「自然をまもる会」は東睦合自治会のみで構成している。結成は 6 年前で、国の制度（農地・水環境保全支払交付金（旧農地・水・環境保全向上対策））に伴い県、津市が一斉に行った補助制度の受け皿としてスタートした。耕地面積に応じて補助金が支給される。コスモス祭りを企画した理由は、30 年ほど前（？）には夏祭りなどの行事がいろいろあったが子供が減ったこともありこの地域になんのイベントもなくなっていたため、なにかイベント的なことをしようと思ったからである。当補助制度は景観形成環境保全の為、対象地は畑として利用していない土地を利用している。
- ② 回覧板の他に掲示板がある。
- ③ 個人所有田畑の単位は比較的小さく、大地主がいるわけではない。入会地はない。寺の所有地はある。作田池のある谷戸状の地区には人は住んでおらず、土地は集落の人によって所有、耕作、樹林の利用が行なわれている。
- ④ 志登茂川水系、前田川水系があるが、前田川水系の取水口近くの水路の陥没により取水が困難になったので中勢用水より取水している。東睦合水利組合として、年 3 回（4、6、7 月）に水路管理作業を行う。ため池の作田池は隣の地域と合同管理。
- ⑤ 多為神社の祭礼は、以前は神輿が出たが、いまは子供が少ない（小学生 9 名）ため神輿がなくなった。大里全体での地区別運動会があり、それには参加している。

III. 交通 人とモノの往来

- ② 南北の道として集落内を通る道があるが、特段名前はない。以前は通過交通もない道。谷戸地域を縦断する国道 2 3 号バイパスは、昭和 40 年代から計画があった。昭和 45 年ごろに計画説明がはじまり、平成 5 年ごろに用地確保が進んでいたが遺跡の出土による調査などもあり、工事は平成 10 年ごろに行われた。集落の東側を通る県道のバイパスは圃場整備の際にすでに計画され用地確保されていた。
- ④ 志登茂川に水運利用はない。昭和 45 年ごろから下流から河川改修が進んできているが前田川合流点のあたりで止まっている。
- ⑥ 紀勢本線自体は明治 14 年ごろから整備された。多為神社のすぐ裏を通っている。当時は国の方針としての鉄道建設に反対はできなかったと思われる。

IV. 集落構造 集落の骨格

- ②墓の管理について「管理は村で八軒で管理する。」とあるが、これは複数ある墓のうちの一つ

のことについての記述なので、削除する。墓は移転しているものある。現在は3箇所。

③大工の指導のもと共同で家を作っていたというのが、今から17,8年ほど前のこと。エツリや土壁塗りなどを共同で作業した。

⑤昭和30年代にほとんどの家が建替えられた。辻家が60年位前に建てられたもので、これよりもっとも古い部類に入る。土蔵は少ないが幾つかある。藁吹き屋根をトタンで覆ったものが天理教の教会の家としてあるが、茅は近くでとれないので、麦わら葺きが多かった。井戸は各戸にあり、共同井戸はなかった。上水道は簡易水道が昭和45,6年頃に整備、下水道は集落排水下水が平成13年頃整備された。

⑦ 特筆するほどではないが、農業用水路に洗い場があった。

キャッチフレーズ

「自治を支える田んぼと知恵」の自治については、個人の力が強いことを意図している。大地主や共有財産があるわけではなく、独立性の高い個人が集まっているという自治のかたち。「知恵」は、例えば自分たちで家を建てることできる、というようなことであるが、キャッチフレーズ自体は今後再検討の余地が大きい。暫定的なもの。

現地調査

徒歩にて集落内を歩き、寺院、神社、墓、取水口などを巡った。その後車で谷戸状の作田方面に移動し、墓、ため池、耕作地を回った。

現地調査で確認されたこと。

- 集落（居住地）は微高地にある、とされていたが、実際にはかなり高低差があり、川に向かって張り出している尾根の先端部という印象。高地には寺社、宅地、畑があり、低地に水田という非常に明快な土地利用区分がなされている。
- 多為神社の立地が興味深い。道から鳥居、拝殿にむかって下り勾配、社殿のすぐ後ろに段差をもって鉄道が通る。鉄道敷設時に移動したか？この神社は4集落が氏子であるため、ある時期に合祀され、移動したか、という話もされたが不明。
- 集落内の道は有機的で、辻辻に小さな神様を祀る社がある。山田井は東、北、西、西中の4組に分かれ、それぞれ地蔵をもつ。この地蔵が辻辻にあるが、西中の地蔵は千福寺境内に移設されている。
- マキの生垣を有する家が多い。
- 新築中の家が2軒（いずれもハウスメーカーによるもの）
- 志登茂川を見下ろす位置にある墓地の近くには、線路をまたいだ小野田の集落の墓が昔あったとのこと。
- 集落内を東西に通る鉄道、南北に通る2本の高規格道路の存在感はやはり大きい。特に23号バ

イパスは集落と谷戸状の作田地区を分断する存在として影響が大きいと感じた。視覚的にも道路が盛土とテールアルメ擁壁で高い位置を通るため、谷田地区の緑との視覚的連続性が絶たれている。横断のためにも信号は待ち時間が長く、カルバートを抜ける道はとても狭い。

- 作田地区は泥が深く、耕作には労力を要する。が、そこで生産された米は「黒田米」としてブランド化され、道の駅などでよく売れるとのこと。
- セルフビルドによる道の舗装が行われるなど、自治能力の高さがみられた。資材は市からもらえるとのこと。
- 圃場整備などに合わせて水路がコンクリートで固められたことなどによって、生物の多様性は著しく減ったとのこと。
- 減農薬は自然と進んできた。関東などに比べて稲の生育に適しているためあまり多くの農薬を必要としないとのこと。
- 減反政策があったときにも田井郷では減反をあまりしなかった。(行政区域内で基準を満たせばよかったので、それが可能であった)

現地調査後の意見交換

審査員：新築の家もみられたが、家の建て方について配慮していること、気になることはあるか？

田井郷：特にないが、南向きで風通しが良い配置にするのが基本であるが、敷地による。家のプランとしては昔は田の字型（行事などへの対応）であったが、現在はその必要はなくなっている。壁が多く開口部が少ない家が近年多いが、それについては気になる。

審査員：集落と谷戸地区のつながりが道路によって分断されかけていることが気になった。両者があったために千年持続してきたと思われるが、現代では、資源採取としての山・森林の利用の必要性はなくなり、耕作地も中央に国道23号バイパスが通っている。今後この地域をどう持続させていけるか。

田井郷：作田に耕作地を持っている人は7名程度で内2名程度が耕作している状態。今後考えていく必要がある。

-以上-